

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572709541		
法人名	有限会社クリーンマジック		
事業所名	グループホーム大雄 1ユニット		
所在地	秋田県横手市大雄字上田村東38番地		
自己評価作成日	令和5年10月23日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初の頃から、4月から10月まで毎月いろいろな想定で避難訓練を行ってきた。昨年、隣家が火事になった際は、日頃の訓練が役に立ちスムーズに避難することができた。その際は、近所の方にも協力していただいたり、避難場所として上田村会館を使用することができ、地域との関わり的重要性を感じた。今年初めて職員の栗畑に行き、栗拾いをした。行ける入居者様は限られたが、拾ってきた栗を食べ秋の味覚を味わった。4月から外国人研修生を受け入れ、試行錯誤をしながら対応をしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	令和5年11月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、支援では日常の「ちいさなこと」こそが大切、ちいさな「きちんと」の積み重ねがプロの仕事と考えている。統一した支援の方針、職員間の連携を図る上での工夫として「働く環境委員会」を設けている。職員が疑問に思ったり不都合と感じることを一人ひとりが2ヶ月毎に文書で提出し、案件により職員会議で話し合い、また提出された内容は「まとめ」とし皆に報告している。ホームには職員で構成される9つの委員会があり、全員が責任を持って役割を果たすよう真摯な取り組みがされている。長く勤めている職員が多く家族からの信頼も厚い。掃除が行き届き清潔で、良く整理整頓がされているのも、万事いい加減にしない日々の支援の賜物と思われる。運営推進会議をはじめ、地域との関わりでも詳細な報告や地域の方とのやり取り、家族への毎月の「状態報告」など、様々な場面で丁寧な姿勢が際立つホームである。訪問当日も旬の食材を用いた温かな家庭料理が提供され、利用者と職員の和やかな食事の様子が印象的であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で利用者様が望む暮らしを考え、わかりやすい言葉にし、食堂へ掲示している。利用者様に合わせた生活ができるよう、日々取り組んでいる。	「望・楽・笑・心」の文字に集約された分かりやすい理念がリビングに掲示されていて、職員は日頃から理念を意識した支援の実践をを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に挨拶を交わしている。今年は地域の行事が行われたが、職員の家族がコロナ感染し、万一を考え参加しなかった。	コロナ禍前は町内行事に利用者も参加していた。近隣の庭の百合の観賞に誘われたり、ホームに季節の草花を頂くなど付き合いがあった。最近は散歩や日光浴で外に出た際には挨拶を交わす関係である。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議で報告をしたり、広報に認知症についての知識を載せて伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況やヒヤリ・ハットの内容について記載し報告をしている。意見交換や情報収集を行い、サービス向上・改善に努めている。	町内会長、地区民生委員、大雄地域局職員、家族が参加している。ホームからの現状報告は丁寧で、特にヒヤリハット報告は具体的に詳細に報告されている。委員からも意見を頂きサービス向上に役立てていることが会議資料、会議録からも確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議の際に相談したり、月2回の横手市の相談員の訪問があり、情報交換を行っている。	大雄地域包括支援センター主催の地域ケア会議に参加しており、行政や地域のサービスと繋がりが得られている。横手市からは月2回介護相談員がホームを訪れ「利用者の声」を聴き、職員に伝えられている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束及び虐待防止についての勉強会を行い、対応に注意を払いケアに取り組んでいる。玄関に施錠はせず、自由に入出りできるようにしている。	身体拘束適正化のための指針が整備され、身体拘束廃止委員会を設置し毎月の報告がされている。年2回職員が講師になり勉強会も実施し、日頃から言葉遣いやケアの仕方など適切かを考える職員教育がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はいないが、必要性を感じた際は関係者に相談していく。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書でわかりやすい言葉で説明し、一つひとつの意向を確認しながら同意を得ている。ホーム見学時や面接時も話を聞き取り説明をしている。法の改定時には書面で説明し、同意を得ている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	契約時に苦情についての窓口の説明をしている。月に1回状態報告文を送る際に意見書を同封している。面会時は利用者様の状態報告をし、要望の聞き取りを行っている。	毎月担当から家族へ「状態報告」を送付しており、通院結果や身体状況、日々の様子や行事の参加などの詳細な文面を確認した。家族からの意見は、意見書や面会時、電話での聴き取り等で伺っている。家族アンケートでは、家族意見に良く対応してくれると感謝の言葉が多かった。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	働く環境委員会を設け、2か月に1回意見や悩み、要望等を書いてもらい内容によっては話し合いをしている。今後、面談を行う予定である。	働く環境委員会は、職員皆が普段から意見や悩み、要望等を管理者やホームの運営側に届けられる仕組みとして役立っている。内容により職員会議で話し合ったり、また職員から出た意見は毎回「まとめ」として皆に周知されたりしていることが確認できた。風通しの良い関係作りがなされている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は横手市グループホーム協議会を開催していないため参加していない。今後集まりがあれば参加する予定である。地域ケア会議では事業所の事例検討に参加したり、必要に応じて相談し情報交換をしている。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人からの意見や要望等を聞き、安心できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時や面接時に意見や要望等の聞き取りをしている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に作業を行ったりいろいろなことを教えてもらい、共に支え合う関係を築いている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の要望に応えられるよう、ご家族様に相談したり、協力をお願いし利用者様が安心して過ごせるようにしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	面会場所と時間を決めて面会をしている。要望があれば電話をかけた手紙のやり取りができるよう支援をしている。	外出時に自宅を訪ねたり、近所の方がホームに面会にきてくれたりしている。家族や友人への電話や手紙のやり取りの支援、馴染みの床屋利用の取り次ぎもしている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が共に支え合い、助け合えるよう努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネージャーと連絡をとったりし、その後の経過を観察している。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から聞き出したり、毎月の望みの聞き取りを行い、実現できるように取り組んでいる。困難な場合は、利用者様の立場になり検討している。	日頃から日常会話の中で本人の気持ちを聞き記録している他、毎月のケース会議の前には、担当職員が本人の希望を尋ね文書化している。会議では、いかに本人の気持ちに添い希望を実現できるかの検討を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に聞き取りを行っている。日々の会話の中で聞き、職員と情報を共有している。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ケース会議や日々の生活からの様子やご家族様の要望を聞き、介護計画を作成している。	各担当がまとめた資料を基にケース会議で職員間で話し合い、個別介護計画を作成している。本人家族の要望は計画作成者が聴き取り計画に反映させている。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子や状態変化を介護記録に記入し、申し送りを行い情報を共有している。必要に応じて介護計画に追加・見直しを行っている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内で行われているイベントに外出している。散歩に出かけられるようにし、その際は声をかけていただいている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様が希望している病院、かかりつけ医を利用している。嘱託医へは、24時間連絡・相談ができるようにしている。	本人や家族の要望に添って病院、かかりつけ医を決めている。通院付き添いはホーム職員が行っているが、家族へは結果を詳細に報告している。嘱託医にはいつでも直接連絡が出来、必要に応じ往診もしてもらっている。薬局はホーム開設時からの付き合いで相談もでき協力的である。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ状態報告し、介護の手当のアドバイスをいただいている。体調不良時や気になることがある時は直接医師へ連絡し、適切なアドバイスをいただいている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはホームでの生活の様子を情報提供している。看護師や医療相談員と連絡をとり、話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、ご家族様へ指針を説明し同意を得ている。対応が必要な時は、主治医、ご家族様、ホーム職員とで相談し、今後の方針についての話し合いをしている。その際は、訪問看護等も利用できるよう主治医、ご家族様と相談している。	重度化対応・終末期ケア対応指針が整備されており、入居時に本人・家族に説明し同意を得ている。看取りの実施は、家族や主治医、ホーム職員で話し合いの上、方針を共有している。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニットに緊急時対応マニュアルを準備し、いつでも確認できるようにしている。急変時(特に感染症)は訓練を行ったが、事故発生時はまだ行っていない。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月から10月の間は、毎月避難訓練を行い、年2回は消防立ち会いのもと、通報訓練を行っている。地域の消防団にも協力をお願いしている。	消防署員立ち会いのもと、年2回の避難訓練を実施している。昨年の隣家の火災の際には日頃の訓練の経験が生かされ、全員が無事に避難できた。業務継続計画策定に向け現在作業中である。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない声かけを行い、声の大きさやトーン、話す場所等を気をつけ、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	例えば衣類整理を自分流にこだわる方には干渉せず本人に任せるなど、一人ひとりの人格を尊重しその人に添った支援をしている。職員は互いに気をつけ合い、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう適切な言葉使いや接し方を心がけている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容を利用したりしている。身だしなみが整えられるよう、準備し支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を利用し、季節や行事に合った食事の提供を心がけている。準備や後片づけができるように、利用者様には一緒に手伝っていただいている。	地域の食材や季節の食材を用い、ホームで調理した温かい食事が提供されている。利用者と職員は食卓を共にし、和やかな雰囲気ですべての準備、片づけ等、利用者はできることを手伝っている。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を記録し、状況に応じて補食をすすめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけをし、利用者様に合わせて見守りや介助を行っている。週3回ポリデント洗浄をしている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるように誘導している。利用者様に合わせて使用するパッドの種類を使い分けている。	排泄チェック表を参考に個々の排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行っている。一人ひとりの排泄状況に合わせて介護用品を選んでいる。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や運動をすすめたり、牛乳やヨーグルト等の乳製品、水分摂取をすすめている。便を出しやすくするための薬を内服している方もいるが、利用者様に合わせて内服する量や時間を調整している。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の状態に合わせて、清拭やシャワー浴、湯船に入る等の対応をしている。	湯温の設定など、利用者個々の好みや身体の状態に合わせて、快適な入浴になるよう行っている。入浴時間を楽しく過ごしてもらうよう会話することも心がけている。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣や状況に合わせて、休息の声かけや誘導をしている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員がいつでも確認できるように、利用者様のファイルごとに保管している。申し送りや連絡帳で情報を共有し、内服後の様子を記録に残している。薬剤師にも相談している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活全般を職員の介助で行っている方もいるが、できる方は食器拭きやタオルたたみ等を一緒に行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様から要望があれば外出できるようにしている。地域の行事には参加できなかったが、参加している時は地域の方にも協力していただいている。	年3~4回は桜や菖蒲、芝桜など季節の花を楽しむために外出している。個別には、本人の希望に添いホーム入居前に暮らした家を訪ねたり、お墓参りに行ったり、家族に連絡し買物外出をしたりしている。今年は職員所有の栗園に栗拾いに出かけ、収穫した栗で季節の味覚を楽しんだ。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すべて職員が管理している。ほしい物がある時は、職員が代わりに買い物をしている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や温度、湿度調整を行い過ごしやすいようにしている。ホームに季節の装飾を行ったり、行事や外出の写真を飾ったりしている。	環境衛生委員会の職員を中心に、季節毎の壁面装飾や行事の写真、毎月近隣の小学校から贈られる児童の作品等を掲示し、ホームは温かな雰囲気醸している。採光、温度湿度も快適で隅々まで掃除が行き届き、清潔でどこもきちんと整頓されている。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の状態に合わせるために。食事は座る場所が固定となることが多い。その他はソファに座って過ごしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しい物だけでなく、自宅で使用していた物を持ってきていただいている。ご家族様の写真や贈り物は、利用者様の見えやすい位置に飾っている。	利用者の意向に添って居室は設えている。家族からの写真や贈り物、誕生日の本人の写真等が飾られている。また動線に合わせてベッドや筆筒の位置を工夫し、本人が暮らしやすいよう配慮されている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の目線に合わせた場所に、張り紙をしたり時計を置いている。食堂や居室は、利用者様の状態に合わせてその時々で配置を変えている。		